

## プレスリリース

平成19年8月8日  
農 林 水 産 省

## 平成19年度水稲作況委員会（第1回）の意見について

水稲作柄概況調査（8月15日現在調査）を的確に実施するに当たっての留意事項等について、専門的見地からの提言を受けるため、本日、水稲作況委員会（第1回）を開催しましたので、別添のとおり当該委員会の意見を公表します。

## 【問い合わせ先】

農 林 水 産 省 大 臣 官 房  
統 計 部 生 産 流 通 消 費 統 計 課

担 当：課長補佐（企画班担当）石 田  
電 話：03-3501-4502

当資料のホームページ掲載先URL  
<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>

### 水稲作況委員会（第1回）の意見

平成19年産水稲の8月15日現在における作柄概況調査に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- 1 水稲の生育は、梅雨明け後、おおむね天候に恵まれ順調に推移しているものの、梅雨入り後、全国的に日照不足及び低温傾向となったことから、6月の好天により進んでいた生育が抑制され、平年並みからやや遅れ気味に経過していると見込まれる。  
このため、作柄については、日照不足及び低温が及ぼす影響に留意しながら、穂数、1穂当たりもみ数の状況を正確に把握する必要がある。  
なお、7月の低温が幼穂形成期から減数分裂期に当たる地域では、稔実への影響に留意する必要がある。
- 2 台風の襲来や前線の活動による影響に留意する必要がある。  
特に、台風第4号及び5号により、倒伏やフェーン現象の影響を受けた地域では、稔実や登熟への影響に留意する必要がある。
- 3 7月に入ってから全国的な日照不足などの影響から稲体が軟弱傾向のため、全国的にいもち病の発生状況等について留意する必要がある。  
また、斑点米カメムシ類、ウンカ類等の発生が多いと予想されることから、その被害の状況に留意する必要がある。
- 4 梅雨明け後、気温が高い日が続いていることから、出穂期から登熟期にかけての高温の影響について留意する必要がある。

#### 【参考】

##### 水稲作況委員会委員

|              |                                      |
|--------------|--------------------------------------|
| (座長) 畑 中 孝 晴 | (社)農林水産先端技術産業振興センター顧問                |
| 秋 田 重 誠      | 滋賀県立大学環境科学部教授                        |
| 黒 田 栄 喜      | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授                |
| 山 川 修 治      | 日本大学文理学部地球システム科学科教授                  |
| 丸 山 幸 夫      | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授    |
| 近 藤 始 彦      | 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長 |
| 米 本 博 一      | 全国農業協同組合連合会常務理事                      |
| 馬 場 利 彦      | 全国農業協同組合中央会農業対策部長                    |
| 安 藤 勲        | 全国米穀販売事業協同組合常務理事                     |

プレスリリース

平成19年8月30日  
農 林 水 産 省

## 平成19年度水稲作況委員会（第2回）の意見について

本日、水稲作況委員会（第2回）を開催しましたので、別添のとおり当該委員会の意見を公表します。

### 【問い合わせ先】

農 林 水 産 省 大 臣 官 房  
統 計 部 生 産 流 通 消 費 統 計 課

担 当 : 課 長 佐 藤

電 話 : 03-6744-2022

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>

## 水稲作況委員会（第2回）の意見

- 1 8月15日現在調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響
  - (1) 7月に入り、全国的に低温・日照不足で経過したが、梅雨明け以降、一転して全国的に気温・日照時間共に平年を上回り、記録的な高温・多照傾向で推移している。  
今後の天候の見通しでは、気温・日照時間ともに平年並みか平年を上回ると予想されている。
  - (2) 本年の水稲は、7月に入ってから日照不足等の影響から、6月までの好天により進んでいた生育が抑制され、一部地域を除き穂数、もみ数が平年並みからやや下回り、出穂期も平年並みからやや遅れている。登熟は、おおむね順調に推移すると見込まれる。
- 2 次期の調査に当たって留意すべき事項
  - (1) 7月の日照不足等により生育が遅延している地域においては、品種・地域別の出穂遅延程度ともみ数を正確に把握する必要がある。
  - (2) 幼穂形成期から減数分裂期に低温・日照不足となった地域や台風第5号の影響によりフェーン現象を受けた地域では、稔実及び登熟への影響に留意する必要がある。
  - (3) 梅雨明け以降、例年になく高温・多照傾向で推移していることから、登熟等や玄米品位に及ぼす影響を十分把握する必要がある。
  - (4) 台風及び秋雨前線による作柄への影響を十分見極める必要がある。
  - (5) 斑点米カメムシ類、ウンカ類等の発生が多いと予想される地域においては、その被害の状況に留意する必要がある。
  - (6) 減農薬・減化学肥料等による特別栽培米等が普及している地域では、登熟期における稲体窒素レベルの低下が、作柄及び品質に及ぼす影響に留意する必要がある。
  - (7) 台風第4号の影響により、乳白米等が例年になく発生している地域では、その品位等の情報について十分に精査の上、収量の確定を行う必要がある。
- 3 次期のもみ数確定期調査の調査期日  
本年の水稲の生育は、おおむね平年並みとなっていることから、次期のもみ数確定期調査は、例年どおり9月15日現在とすることが適当と考える。

### 【参考】

#### 水稲作況委員会委員

|              |                                      |
|--------------|--------------------------------------|
| (座長) 畑 中 孝 晴 | (社)農林水産先端技術産業振興センター顧問                |
| 秋 田 重 誠      | 滋賀県立大学環境科学部教授                        |
| 黒 田 栄 喜      | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授                |
| 山 川 修 治      | 日本大学文理学部地球システム科学科教授                  |
| 丸 山 幸 夫      | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授    |
| 近 藤 始 彦      | 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長 |
| 米 本 博 一      | 全国農業協同組合連合会常務理事                      |
| 馬 場 利 彦      | 全国農業協同組合中央会農業対策部長                    |
| 安 藤 勲        | 全国米穀販売事業共済協同組合常務理事                   |

プレスリリース

平成19年9月28日  
農 林 水 産 省

## 平成19年度水稲作況委員会（第3回）の意見について

本日、水稲作況委員会（第3回）を開催しましたので、別添のとおり当該委員会の意見を公表します。

### 【問い合わせ先】

農 林 水 産 省 大 臣 官 房  
統 計 部 生 産 流 通 消 費 統 計 課

担 当 : 課 長 佐 藤

電 話 : 03-6744-2022

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>

## 水稲作況委員会（第3回）の意見

### 1 9月15日調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響

(1) 8月中旬以降、気温はおおむね平年を上回って推移しているものの、日照時間は8月下旬以降、一部地域を除いて平年を下回って推移している。

また、9月に関東から東北、北海道を縦断した台風第9号や台風第11号の影響により活発化した秋雨前線の影響により関東地方から東北・北海道地方では大雨の一方、中国・四国地方や九州地方では少雨傾向で推移している。

今後の天候の見通し(9月21日発表の気象庁1か月予報)では、全国的に気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか少なく、日照時間は平年並みか多いと予想されている。

(2) このような気象の予報からすると、穂数・もみ数が平年並みから平年を下回る中での登熟については、おおむね順調に推移するものと見込まれるが、高温やこれまでの日照不足が粒の充実や乳白粒の発生等品質に与える影響が懸念される。

また、9月の台風や大雨により浸・冠水等の被害が発生した地域では、登熟の抑制や品質への影響が懸念される。

### 2 次回の調査に当たって留意すべき事項

次回(10月15日現在)の調査に当たっては、以下の事項が収量に及ぼす影響を適切に反映する必要がある。特に(1)、(2)及び(3)については、相互に関係するので、その点に十分留意する必要がある。

- (1) 全もみ数が少ないことによる登熟への補償作用の程度
- (2) 登熟期間の高温・少雨が登熟や品質に与える影響
- (3) 8月下旬から9月上旬にかけての日照不足が登熟や品質に与える影響
- (4) 台風等による倒伏や浸・冠水の被害による品質低下やコンバインロスの状況
- (5) 斑点米カメムシ類やトビイロウンカ等の病虫害による品質への影響

### 【参考】

#### 水稲作況委員会委員

|              |                                      |
|--------------|--------------------------------------|
| (座長) 畑 中 孝 晴 | (社)農林水産先端技術産業振興センター顧問                |
| 秋 田 重 誠      | 滋賀県立大学環境科学部教授                        |
| 黒 田 栄 喜      | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授                |
| 山 川 修 治      | 日本大学文理学部地球システム科学科教授                  |
| 丸 山 幸 夫      | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授    |
| 近 藤 始 彦      | 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長 |
| 米 本 博 一      | 全国農業協同組合連合会常務理事                      |
| 馬 場 利 彦      | 全国農業協同組合中央会農業対策部長                    |
| 安 藤 勲        | 全国米穀販売事業共済協同組合常務理事                   |